



Document Ver 202203-1

サーバマネジメント

Resource Athlete[®]

FAQ

Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
ALog ConVerter、Resource Athlete、および両製品のロゴマークは株式会社網屋の登録商標です。
その他の会社名、商品名は各社の登録商標または商標です。

本書で指定している箇所以外でソフトウェアに改変を加えた場合は、サポート対象外となります。
本書の一部または全部を無断転載することを禁止します。
本書の内容に関しては、将来予告なしに変更する場合があります。
本書では正確な情報を記載するよう努めておりますが、誤植や作成上の誤記がないことを保証するものではありません。

目次

はじめに	1
第 1 章 仕様	2
サブテーブルでのフィルターについて	2
フォルダークエリのフィルターについて	2
フォルダー・ファイルクエリの「階層」	2
サブクエリの使用方法および用途	2
サブクエリ使用時のデータサイズ	3
オプション「親フォルダーのアクセス権と差異があるフォルダーのみの出力」	3
オプション「展開時に使用するドメインスコープ」	4
オプション「ACL のグループを展開する」	4
オプション「収集時のパフォーマンス」	5
オプション「重複ファイルを抽出する」	5
オプション「特定のアカウントがアクセス可能のみ抽出」	6
オプション「台帳機能を付ける」	6
オプション「フォルダーの最終アクセス日時を求める」	7
オプション「収集対象所属グループ」、「収集対象グループ」	7
フィルターのワイルドカードについて	9
第 2 章 運用	9
フォルダー・ファイルクエリの実行に時間がかかる	9
マネージャーサーバをバックアップ、リストアしたい	10
アプリケーション設定フォルダーを別のパスに移動したい	10
システムサーバを別マシンに移行したい	10
クエリの結果がアスタリスク表示になってしまう	11
マネージャーサーバのメモリ使用量を抑えたい	11
アクセス権リストの「アカウント」の出力が変わった	12
ユーザークエリの「最終ログオン日時」が正しくない	12
スコープマスターのタイプ「Windows」と「ドメイン」の違い	12
サブクエリの実行に時間がかかる	13
対象マシンの UAC が有効のとき、クエリ実行に失敗する	13
ファイルのアクセス日時が更新されない	13
コマンドラインでクエリを操作する	13
対象マシンへ他サービスから net use 接続されている場合	14
第 3 章 制限事項	15
ファイル・フォルダー・共有クエリの収集対象	15
クエリの最大同時実行数	15
ファイル・フォルダークエリでアクセス日時が更新される	15
アプリケーションクエリの「タイプ」列に「更新プログラム」と出力されない	15
マネージャーサーバが所属するドメインと信頼関係が片方向のドメインが存在する場合の注意事項	16

はじめに

本書は、Resource Athlete についてよくお問い合わせいただく質問事項と、その回答を記載した文書です。

Resource Athlete は、ファイルサーバに設定されたフォルダーアクセス権、システムのハードウェアリソースの状況、ドメインコントローラーのユーザーアカウントの一覧など、様々な情報を収集する製品です。情報収集の対象となるシステム(OS やハードウェア)の仕様に関するお問い合わせは、メーカー各社またはご購入いただいた販売代理店にお問い合わせください。

●関連文書について

Resource Athlete には、本書の他に目的に応じた各種ドキュメントがあります。

文書名	説明
ユーザーズガイド(Resource Athlete)	Resource Athlete のユーザーズガイドです。Resource Athlete の概要およびインストール/アンインストール手順が記載されています。

●製品情報およびオンラインサポートについて

Resource Athlete WEB サイト <https://www.amiya.co.jp/solutions/resource_athlete/>



製品に関する様々な情報が参照できます。

オンラインサポートセンター <<https://support.alog.app/>>

最新のリリースバージョンやドキュメントがダウンロードできる他、トラブルシューティングや障害情報などが参照できます。

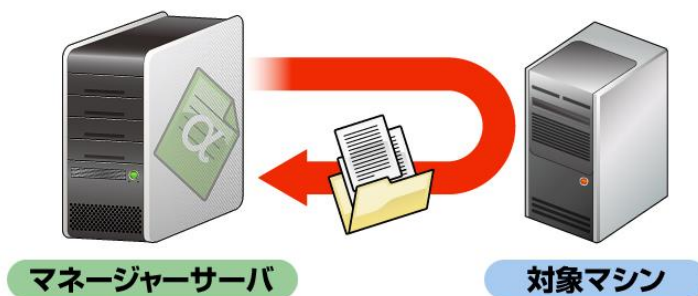
●表記

本書では設定や利用上の注意事項や参考情報などを以下のとおり記載します。

表記	説明
 ヒント	参考情報や推奨事項などを記載します。
 注意	ご利用上または設定上の注意事項を記載します。

●用語について

本書では情報収集を実行するサーバを[マネージャーサーバ]、情報収集の対象となるマシンを[対象マシン]と表記します。



第 1 章 仕様

この章では、Resource Athlete のよくなる仕様のお問い合わせを FAQ として掲載します。

サブテーブルでのフィルターについて

サブテーブルのフィールドでフィルターした場合に、リスト内の特定の行をフィルターすることはできません。
フィルター条件にマッチした場合サブテーブルのすべての行が出力されてしまいます。

フォルダクエリのフィルターについて

フォルダクエリの「サイズ」、「ファイル数」、「フォルダー数」、「最終アクセス日時」フィールドでフィルターの設定を行った場合、フィールドの合計結果にフィルター結果は反映されません。

フォルダー・ファイルクエリの「階層」

フォルダクエリおよびファイルクエリの「階層」は、収集対象パスを 0 階層とします。
オプションの「取得する階層上限数」も、収集対象パスを 0 階層とし指定された階層まで収集を行います。

サブクエリの使用方法および用途

サブクエリは、親クエリの取得結果をフィルターして出力したい場合に利用します。
※ファイルクエリ、フォルダクエリで収集対象パスを親クエリとサブクエリで分けて実行するような設定はできません。

(例)重複グループナンバーが次の何れかの値 (8、10、12)に等しい結果のみ出力する。

□親クエリ: 03_ファイルクエリ

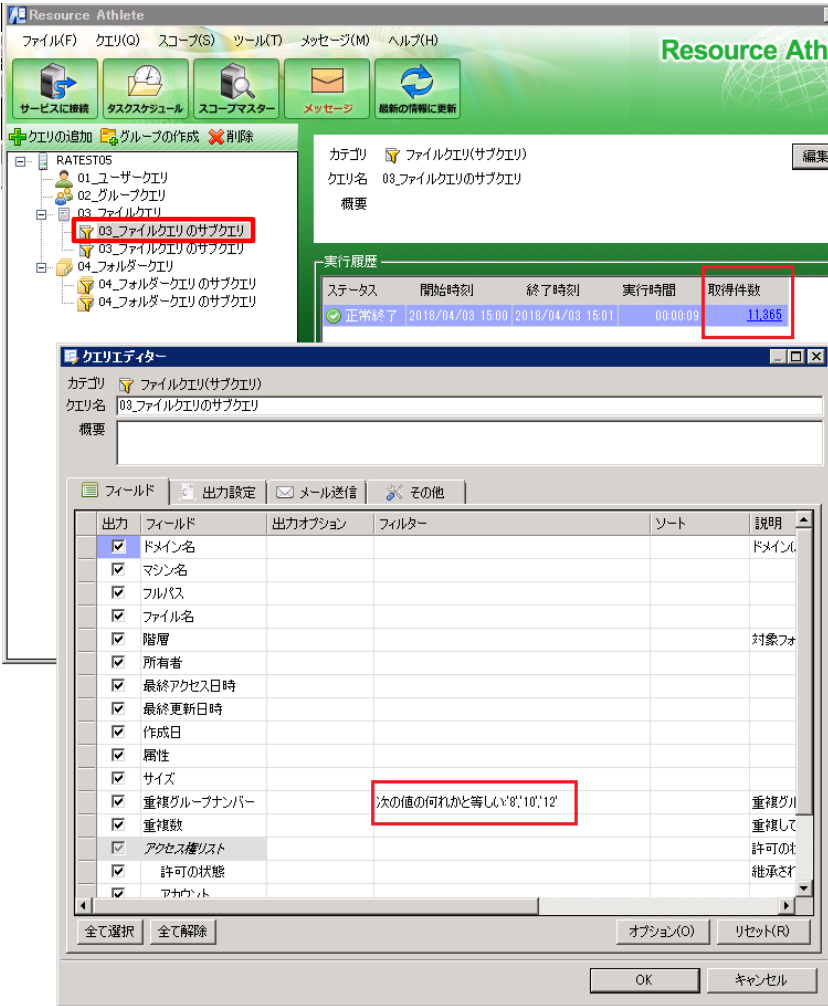
└-----△サブクエリ: 03_ファイルクエリのサブクエリ(フィルター条件: 重複グループナンバー)

・親クエリ

The screenshot shows the Resource Athlete interface. On the left, a tree view shows a query named '03_ファイルクエリ' (03_File Query) selected. The main area displays the query details: 'カテゴリ: ファイルクエリ' (Category: File Query) and 'クエリ名: 03_ファイルクエリ' (Query Name: 03_File Query). Below this, the '実行履歴' (Execution History) table is visible, showing two successful runs with the number of items retrieved highlighted in red.

ステータス	開始時刻	終了時刻	実行時間	取得件数
正常終了	2018/03/29 18:21	2018/03/29 18:45	00:24:04	35,665
正常終了	2018/03/29 18:14	2018/03/29 18:19	00:05:22	33,009

・サブクエリ



サブクエリ使用時のデータサイズ

サブクエリは、親クエリの結果を一度コピーして特定の条件を抽出しているため親クエリと同じサイズの容量が必要となります。サブクエリを複数登録している場合には、最低でも以下の容量が必要となります。

サブクエリの数 × 親クエリの結果 DB サイズ

オプション「親フォルダーのアクセス権と差異があるフォルダーのみの出力」

フォルダクエリ実行時に、親フォルダーとアクセス権が異なるフォルダーだけを収集対象とすることが可能です。収集量が減る分、収集時間の短縮になります。

親フォルダーと子フォルダーのアクセス権を比較し差異があった場合は出力対象となります。継承の有無は差異の比較に使用していません。

手順は下記の通りです。

- 1) 『ユーザーズガイド(Resource Athlete)』の「3章 4-10」と同様の手順でクエリを編集する
- 2) [フィールド]タブを選択し、下方の[オプション]ボタンを選択する
- 3) 「オプション」画面の[フォルダーの出力条件]を[アクセス権に差異があるもののみ出力]に設定する

オプション「展開時に使用するドメインスコープ」

ドメインユーザーやグループ名を取得するために、対象ドメインの指定が必要です。

- ・ドメイングループに所属しているユーザーを展開したい場合
- ・複数ドメイン環境下においてグループクエリを使用する場合
- ・オプション「特定のアカウントがアクセス可能のみ抽出」を「はい」にした場合

- 1) 『ユーザーズガイド(Resource Athlete)』の「3章 4-10」と同様の手順でクエリを編集する
- 2) [フィールド]タブを選択し、下方の[オプション]ボタンを選択する
- 3) [オプション]画面の[展開時に使用するドメインスコープ]の[編集]ボタンをクリックする

項目	値	説明
フォルダーの出力条件	全て出力	
取得する階層上限数		スコープで設定された取得対象パスからの階層数で指定します。
サブテーブルを分割する	いいえ	サブテーブル項目を改行で表現せず、レコード行を増やして表示します。
展開時に使用するドメインスコープ	編集	対象マシンがドメインに所属している場合、設定してください。
ACLのグループを展開する	いいえ	ACLに設定されているグループアカウントを所属するユーザーに展開します。
収集時のパフォーマンス	中	[低]の場合は、システムサーバ負荷が少なく、クエリ実行速度が速くなります。
特定アカウントがアクセス可能のみ抽出	いいえ	
除外フォルダー名	~snapshot	入力されたフォルダー名に完全一致するフォルダーを、収集時に除外します。

- 4) [展開時に使用するドメインスコープ]画面でグループ展開に必要なドメインを選択し、[OK]ボタンをクリックする

<input checked="" type="checkbox"/>	osaka.com
<input checked="" type="checkbox"/>	tokyo.com

オプション「ACLのグループを展開する」

ファイルクエリ、フォルダークエリ、共有クエリの収集項目「アクセス権リストアカウント」で収集される項目がグループだった場合、そのグループを展開し所属するユーザーの一覧で出力する事が可能です。

マシン名	フルパス	共有パス	許可の状態	アカウント	許可の種類
svr01	D:\営業	\\svr01\営業	許可	svr01\Administrator	フルコントロール
			許可	AMIYA.CO.JP\iked	フルコントロール
			許可	AMIYA.CO.JP\SALES	フルコントロール

マシン名	フルパス	共有パス	許可の状態	アカウント	アカウント名	許可の種類
svr01	D:\営業	\\svr01\営業	許可	svr01\Administrator	Administrator	フルコントロール
			許可	AMIYA.CO.JP\iked	池田 幸一	フルコントロール
			許可	AMIYA.CO.JP\suzuki	鈴木 利夫	フルコントロール
			許可	AMIYA.CO.JP\yamada	山田 隆	フルコントロール
			許可	AMIYA.CO.JP\ishida	石田 健二	フルコントロール
			許可	AMIYA.CO.JP\abe	安部 孝三	フルコントロール
			許可	AMIYA.CO.JP\kinoshita	木下 芳郎	フルコントロール
			許可	AMIYA.CO.JP\kumada	熊田 康子	フルコントロール
			許可	AMIYA.CO.JP\ishii	石井 洋子	フルコントロール
		

手順は下記の通りです。

- 1) 『ユーザーズガイド(Resource Athlete)』の「3 章 4-10」と同様の手順でクエリを編集する
- 2) [フィールド]タブを選択し、下方の[オプション]ボタンを選択する
- 3) [オプション]画面の[ACL のグループを展開する]を[はい]に設定する



ヒント

「ACL のグループを展開する」オプションを使用する際、アカウントライセンスは不要です。

オプション「収集時のパフォーマンス」

フィールド設定、オプションから[収集時のパフォーマンス]を[高]に設定することで、システムサーバ及び対象マシンへの負荷は増大しますがクエリの実行速度を速くすることが可能です。

低から中、および低から高で、約 2 から 2.5 倍になります。

※高スペックマシンの場合かつ同時に実行するクエリがない場合に使用してください。

オプション「重複ファイルを抽出する」

ファイルクエリ実行時に、重複するファイルを抽出することが可能です。重複の判定条件は「サイズ」、「ファイル名」、「更新日」、「ハッシュ値」などがあり、[重複ファイルのみ抽出する]を[はい]に設定すると、重複したファイルのみを抽出します。

重複したファイルは「重複グループナンバー」でグルーピングされ、「重複数」で数がカウントされます。

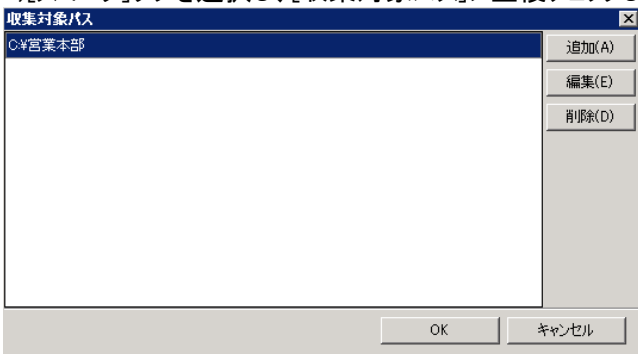
例えば、フォルダーA とフォルダーB 配下にある重複ファイルを抽出するには、「収集対象パス」にフォルダーA とフォルダーB の親フォルダー-(上階層)を指定してください。

※下記のように別々のクエリに設定した場合、重複ファイルを抽出できませんのでご注意ください。

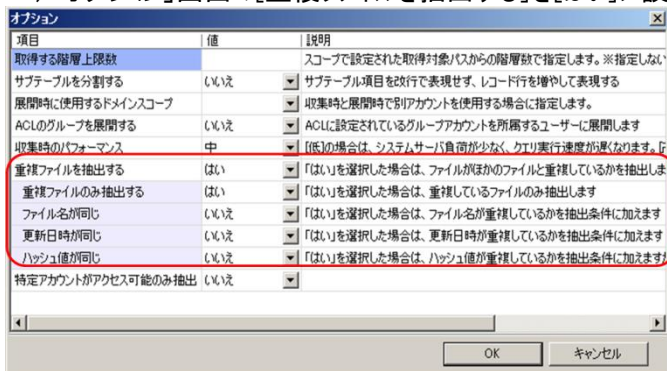
- ・一方のクエリの「収集対象パス」をフォルダーA と設定し、もう一方のクエリの「収集対象パス」をフォルダーB に設定する
- ・親クエリの「収集対象パス」にフォルダーA を設定し、サブクエリでフォルダーB を設定する

手順は下記の通りです。

- 1) 『ユーザーズガイド(Resource Athlete)』の「3 章 4-10」と同様の手順でクエリを編集する
- 2) [スコープ]タブを選択し、[収集対象パス]に重複チェックしたいフォルダーの親フォルダーを設定する



- 3) [フィールド]タブを選択し、下方の[オプション]ボタンを選択する
- 4) 「オプション」画面の[重複ファイルを抽出する]を[はい]に設定する



No	ドメイン名	マシン名	フルパス	ファイル名	サイズ	重複グループナンバー	重複数
1	amiya.co.jp	2008@2sp1ra	C:\営業本部\営業一部\顧客情報.xlsx	顧客情報.xlsx	778240	1	2
2	amiya.co.jp	2008@2sp1ra	C:\営業本部\営業三部\顧客情報 - コピー.xlsx	顧客情報 - コピー.xlsx	778240	1	2

オプション「特定のアカウントがアクセス可能のみ抽出」

ファイルクエリ、フォルダクエリ実行時に、特定アカウントがアクセス可能なフォルダやファイルを抽出することが可能です。

手順は下記の通りです。

- 1) 『ユーザーズガイド(Resource Athlete)』の「3章 4-10」と同様の手順でクエリを編集する
- 2) [フィールド]タブを選択し、下方の[オプション]ボタンを選択する
- 3) 「オプション」画面の[特定のアカウントがアクセス可能のみ抽出]を[はい]に設定する
- 4) 「アカウント名」に抽出したいアカウントを指定し、[アクセス許可]で[読み取り]か[書き込み/削除]を選択する
- 5) オプション「展開時に使用するドメインスコープ」を設定する

※設定方法はオプション「展開時に使用するドメインスコープ」の項を参照

項目	値	説明
フォルダの出力条件	全て出力	
取得する階層上限数		スコープで設定された取得対象パスからの階層数
サブテーブルを分割する	いいえ	サブテーブル項目を改行で表現せず、レコード行を
展開時に使用するドメインスコープ		対象マシンがドメインに所属している場合、設定し
ACLのグループを展開する	いいえ	ACLに設定されているグループアカウントを所属する
収集時のパフォーマンス	中	[低]の場合は、システムサーバ負荷が少なく、クエリ
特定のアカウントがアクセス可能のみ抽出	はい	
アカウント名	amiya.co.jp#morinaga	
アクセス許可	読み取り	
除外フォルダ名	snapshot	入力されたフォルダ名に完全一致するフォルダ

No	ドメイン名	マシン名	フルパス	フォルダ名	許可の状態	アカウント	許可の種類	適用先
1	amiya.co.jp	2008r2sp1ra	C:\営業本部	営業本部	許可	AMIYACO.JP#morinaga	フルコントロール	このフォルダ、サブフォルダおよびファイル
					許可	SYSTEM	フルコントロール	このフォルダ、サブフォルダおよびファイル
					許可	2008R2SP1RA#Administrators	フルコントロール	このフォルダ、サブフォルダおよびファイル
					許可	2008R2SP1RA#Users	読み取りと実行	このフォルダ、サブフォルダおよびファイル
					許可	2008R2SP1RA#Users	特殊	このフォルダとサブフォルダ
					許可	CREATOR OWNER	フルコントロール	サブフォルダとファイルのみ
2	amiya.co.jp	2008r2sp1ra	C:\営業本部\営業一部	営業一部	許可	AMIYACO.JP#morinaga	読み取り	このフォルダ、サブフォルダおよびファイル
					許可	2008R2SP1RA#Administrator	フルコントロール	このフォルダ、サブフォルダおよびファイル
3	amiya.co.jp	2008r2sp1ra	C:\営業本部\営業三部	営業三部	許可	2008R2SP1RA#Administrator	フルコントロール	このフォルダ、サブフォルダおよびファイル
					許可	AMIYACO.JP#morinaga	フルコントロール	このフォルダ、サブフォルダおよびファイル

オプション「台帳機能を付ける」

インベントリ(資産)情報クエリ実行時に、条件にヒットするマシン情報だけでなく、ヒットしないマシンについても出力し、台帳として出力することが可能です。

手順は下記の通りです。

- 1) 『ユーザーズガイド(Resource Athlete)』の「3章 4-10」と同様の手順でクエリを編集する
- 2) [フィールド]タブを選択し、下方の[オプション]ボタンを選択する
- 3) 「オプション」画面の[台帳機能を付ける]を[はい]に設定する

項目	値	説明
同時収集マシン数	50	値を増やすとシステムサーバの負荷が大きくなりますが、クエリの速
台帳機能を付ける	はい	

No	ドメイン名	マシン名	アプリケーション名	バージョン	発行元	タイプ
1	amiya.co.jp	BVSRV03	Symantec AntiVirus	10.1.5000.5	Symantec Corporation	Application
2	amiya.co.jp	PCLABO	Symantec AntiVirus	10.1.7000.7	Symantec Corporation	Application
3	amiya.co.jp	BVSRV55	Symantec AntiVirus	10.1.7000.7	Symantec Corporation	Application
4	amiya.co.jp	SECUID03	Symantec AntiVirus	10.1.8000.8	Symantec Corporation	Application
5	amiya.co.jp	2008R2SP1RA				
6	amiya.co.jp	2012STD				

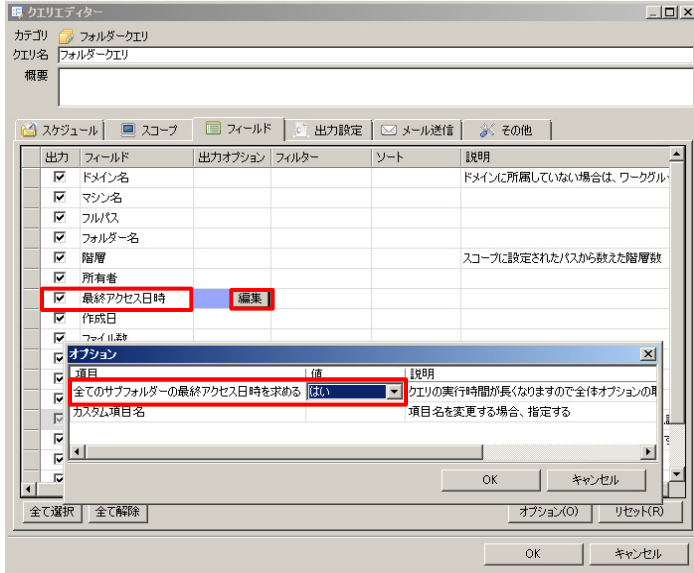
オプション「フォルダーの最終アクセス日時を求める」

フォルダークエリ実行時に、フォルダーの最終アクセス日時を取得することが可能です。

手順は下記の通りです。

- 1) 『ユーザーズガイド(Resource Athlete)』の「3 章 4-10」と同様の手順でクエリを編集する
- 2) [フィールド]タブを選択し、「最終アクセス日時」の[出力]にチェックを入れる

「最終アクセス日時」の[出力オプション]から[編集]ボタンを選択し、オプション[すべてのサブフォルダーの最終アクセス日時を求める]を[はい]に設定すると、すべてのサブフォルダーの最終アクセス日時を取得することも可能です。



No	ドメイン名	マシン名	フルパス	フォルダ名	階層	所有者	最終アクセス日時
1	amiya.co.jp	2008r2sp1ra	C:\RAW#65	#65	0	BUILTIN\Administrators	2018-04-29 00:00:01
2	amiya.co.jp	2008r2sp1ra	C:\RAW#65\A_04_27_000000\B_04_28_000000	B_04_28_000000	2	BUILTIN\Administrators	2018-04-29 00:00:01

オプション「収集対象所属グループ」、「収集対象グループ」

ユーザークエリは、指定したグループに所属しているユーザーを収集します。グループクエリは、指定したグループのみ収集対象とします。

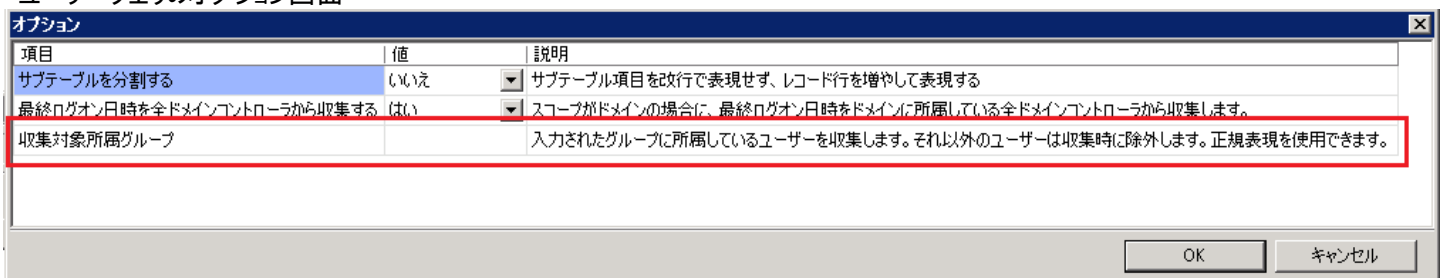
[フィールド]タブの所属グループやグループフィールドの「フィルター」は、全てのグループを収集してからフィルターを行います。本設定はあらかじめ収集対象グループを絞るため、実行時間を短縮できます。

グループ名に正規表現を使用することで、部分一致で設定することも可能です。

手順は下記の通りです。

- 1) 『ユーザーズガイド(Resource Athlete)』の「3 章 4-10」と同様の手順でクエリを編集する
- 2) [フィールド]タブを選択し、下方の[オプション]ボタンを選択する
- 3) 「収集対象所属グループ」、「収集対象グループ」に収集したいグループ名を設定する

・ユーザークエリのオプション画面



・設定例（ユーザークエリの場合）

対象マシンのグループ：営業グループ A、営業グループ B、営業グループ C、営業本部 A、営業本部 B、開発グループ A、開発グループ B

パターン	入力値	収集されるユーザー	備考
営業グループ A のユーザーのみ収集する	営業グループ A	営業グループ A のユーザー	
営業グループ A、営業グループ C のユーザーのみ収集する	営業グループ A 営業グループ C	営業グループ A のユーザー 営業グループ C のユーザー	複数登録する
「営業グループ」の文字列が先頭につくグループのユーザーを全て収集する	営業グループ*	営業グループ A のユーザー 営業グループ B のユーザー 営業グループ C のユーザー	ワイルドカードは「*」で指定する
「グループ A」が末尾につくグループのユーザーを全て収集する	*グループ A	営業グループ A のユーザー 開発グループ A のユーザー	ワイルドカードは「*」で指定する
先頭が「開発」、または末尾が「B」のグループのユーザーを全て収集する	開発 B	営業グループ B のユーザー 営業本部 B のユーザー 開発グループ A のユーザー 開発グループ B のユーザー	「^ X Y \$」で動作します

・グループクエリのオプション画面

オプション

項目	値	説明
サブテーブルを分割する	<input checked="" type="checkbox"/>	サブテーブル項目を改行で表現せず、レコード行を増やして表現する
収集対象グループ		入力されたグループに一致するグループを収集します。それ以外のグループは収集時に除外します。正規表現を使用できます。

OK キャンセル

・設定例（グループクエリの場合）

対象マシンのグループ：営業グループ A、営業グループ B、営業グループ C、営業本部 A、営業本部 B、開発グループ A、開発グループ B

パターン	入力値	収集されるグループ	備考
営業グループ A のみ収集する	営業グループ A	営業グループ A	
営業グループ A、営業グループ C のみ収集する	営業グループ A 営業グループ C	営業グループ A 営業グループ C	複数登録する
「営業グループ」の文字列が先頭につくグループを全て収集する	営業グループ*	営業グループ A 営業グループ B 営業グループ C	ワイルドカードは「*」で指定する
「グループ A」が末尾につくグループを全て収集する	*グループ A	営業グループ A 開発グループ A	ワイルドカードは「*」で指定する
先頭が「開発」、または末尾が「B」のグループを全て収集する	開発 B	営業グループ B 営業本部 B 開発グループ A 開発グループ B	「^ X Y \$」で動作します

フィルターのワイルドカードについて

フィルターでは「%」を記述することでワイルドカードの指定ができます。

フィルターするフォルダーの一例	設定例	説明
C:\機密¥	%機密	フィールド「フルパス」のフィルター設定に「%機密」を設定する設定値に後方一致する対象を出力
C:\機密文書¥	機密%	フィールド「フォルダー名」のフィルター設定に「機密%」を設定する設定値に前方一致する対象を出力
C:\営業部¥2021 年度¥営業-機密文書¥2021 報告書.docx	%機密%	フィールド「フルパス」のフィルター設定に「%機密%」を設定する設定値に部分一致する対象を出力

第 2 章 運用

この章では、Resource Athlete の運用にあたってよくお問い合わせいただく事項を掲載します。

フォルダー・ファイルクエリの実行に時間がかかる

フォルダークエリおよびファイルクエリの実行に時間がかかる場合には以下を検討してください。

① 収集クエリパスの見直し

一つのクエリですべてのパスを取得するのではなく、クエリを細かく作成することで収集時間を短縮できます。

□□部門クエリ

| ¥¥server1¥eigyō

○○部門クエリ

| -¥¥server1¥development

② クエリの実行スケジュールの見直し

同時に実行されているクエリが多い場合には、システムサーバの負荷が高くなり時間がかかってしまう場合があります。同時に実行されているクエリを少なくするためにスケジュールを見直してください。

③ サブクエリを活用する

サブクエリは、親クエリの結果から特定の条件を抽出したい場合に使用します。

親クエリはフィルター設定をしないで情報を取得し、サブクエリで様々な条件を作成し効率よく情報を取得することが可能です。

(例) 拡張子ごとのアクセス権の取得

□親クエリ: 対象パス:C:\○○部門

└-----△サブクエリ1: フィルター条件(ファイルの拡張子が xls)

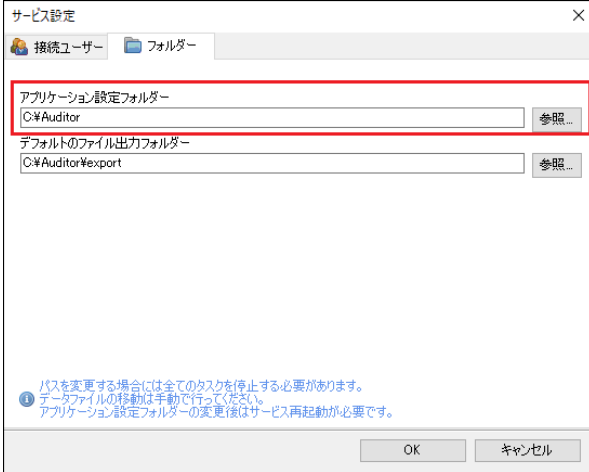
└-----△サブクエリ2: フィルター条件(ファイルの拡張子が doc)

└-----△サブクエリ 3: フィルター条件(ファイルの拡張子が ppt)

マネージャーサーバをバックアップ、リストアしたい

バックアップ、リストアともにアプリケーション設定フォルダーを事前に確認します。

[ツール(T)] - [サービス設定] - [フォルダー] タブから確認してください。



バックアップの手順は以下のとおりです。

- 1) サービス一覧から Resource Athlete を停止する。
- 2) 「アプリケーション設定フォルダー」内のフォルダーをすべてバックアップする
(例) C:\¥Auditor 配下

リストアの手順は以下のとおりです。

- 1) サービス一覧から Resource Athlete を停止する。
- 2) バックアップした Auditor 配下のフォルダーを上書きコピーする。

アプリケーション設定フォルダーを別のパスに移動したい

アプリケーション設定フォルダーを同マシンの別のフォルダーへ移動する場合の手順を示します。

- 1) すべてのタスクを停止する。
- 2) 「アプリケーション設定フォルダー」のパスを移動先のパスに変更し、[OK]で保存する。
(例) 「C:\¥Auditor」→「E:\¥Auditor」
- 3) 変更前のアプリケーション設定フォルダー配下のデータを、変更先のアプリケーション設定フォルダー配下へコピーする。ただし、「Auditor¥conf」配下の「config.xml」ファイルはコピーしないでください。
- 4) サービス一覧から Resource Athlete を再起動する。



注意

変更前の「config.xml」ファイルも変更先にコピーすると正しく動作できません。
もしコピーした場合は、「config.xml」の<OutputRootPath>と<TempdbPath>を変更後のパスに修正し、サービス一覧から Resource Athlete を再起動してください。

システムサーバを別マシンに移行したい

以下に移行の例を示します。

(例)

SVR1 の C ドライブにインストールした Resource Athlete を SVR2 の D ドライブへ移行する
データやログ等もそのまま移行する
SVR1 のアプリケーション設定フォルダーは”C:\¥Auditor”

手順は以下のとおりです。



ヒント

設定ファイルを直接編集するため、誤って編集すると動作しなくなる恐れがあります。
移行する前に「C:\¥Auditor」フォルダーをバックアップしてください。



注意

移行元と移行先でドメインが異なる(ドメイン-WORKGROUP 間の変更も含む)場合、サービス設定で接続ユーザーを追加しているとログインできなくなります。接続ユーザーを全て削除してから設定を移行してください。接続ユーザーは移行完了後再設定してください。

- 1) SVR2 に Resource Athlete を新規インストール & 初期セットアップ完了し、RA クライアントを閉じる。
初期セットアップで以下を設定。
「アプリケーション設定フォルダー」 = D:¥Auditor
「デフォルトのファイル出力フォルダー」 = D:¥Auditor¥export
- 2) SVR2 のサービス一覧から Resource Athlete を停止。
- 3) “<SVR1 のアプリケーション設定フォルダー>¥conf¥config.xml”を編集
 - ① <OutputRootPath>タグ内のパスを”C:¥Auditor”から”D:¥Auditor”に変更
 - ② <DefaultExportPath>タグ内のパスを”C:¥Auditor¥export”から”D:¥Auditor¥export”に変更
 - ③ <TempdbPath>タグ内のパスを”C:¥Auditor¥tempdb”から”D:¥Auditor¥tempdb”に変更
(<TempdbPath>タグは RA2.6.3 以降のみ)
- 4) SVR1 の”C:¥Auditor”の中のデータを、SVR2 の”D:¥Auditor”の中に上書きコピーする。
- 5) SVR2 のサービス一覧から Resource Athlete を開始する。
- 6) SVR2 の RA クライアントを起動する。
左ペインのクエリツリーや、その他の設定情報が復元されていることを確認する。

クエリの結果がアスタリスク表示になってしまう

クエリ実行により、ライセンス上限数を超える情報を収集した場合、クエリ結果ビューアー画面およびファイル出力の結果の一部が*(アスタリスク)表示になってしまいます。

「ヘルプ」の「ライセンス情報」を選択し、ライセンス情報画面のライセンス適用数を確認します。



ライセンスが超過していた場合は、以下の対応をいずれかを行なうことにより、クライアントのビューアーでの結果表示の * を解除できます

- ① 必要な数のライセンスを購入し、ライセンスキーを更新する
- ② 過去のクエリ実行履歴を削除し、ライセンス消費数を削減する

マネージャーサーバのメモリ使用量を抑えたい

フィールド設定、オプションから[収集時のパフォーマンス]を[低]に設定します。クエリの実行時間が長くなりますが、マネージャーサーバ及び対象マシンへの負荷が減少します。

アクセス権リストの「アカウント」の出力が変わった

ファイルクエリ、フォルダクエリ、共有クエリのグループやアカウント等のフィールドに「NT AUTHORITY」及び「BuiltIn」を出力するように変更しました。

ユーザークエリの「最終ログオン日時」が正しくない

「最終ログオン日時」は、実際に認証を行なったドメインコントローラーに記録されます。そのため、複数のドメインコントローラーが存在する場合、タイプ「Windows」で特定のドメインコントローラー名を指定したスコープに対してクエリを実行すると、結果が正しくないことがあります。正しい情報を取得したい場合には、タイプ「ドメイン」でドメイン名を指定したスコープに対してクエリを実行してください(複数のドメインコントローラーの「最終ログオン日時」のうち、最新のものを結果とします)。

スコープマスターのタイプ「Windows」と「ドメイン」の違い

スコープマスターにおけるタイプ選択「Windows」と「ドメイン」には以下のような違いがあります。

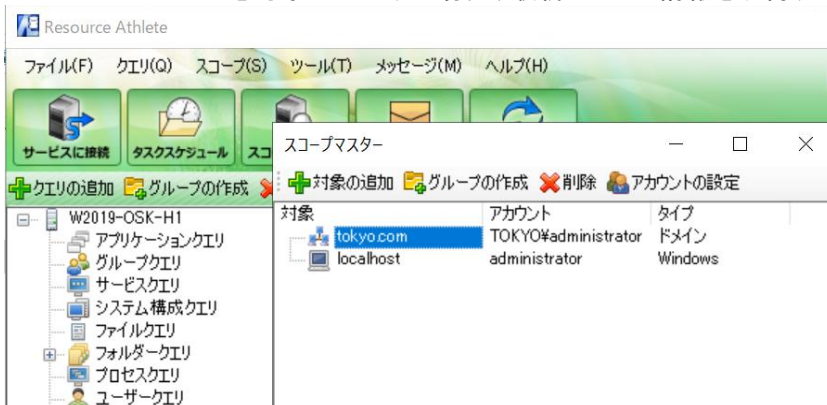
1) タイプ「Windows」の場合

- ・ドメインコントローラー以外のローカルマシンで全てのクエリ情報を取得する場合に指定する
- ・ドメインコントローラーから「フォルダー/ファイル/共有リソース情報」を取得する場合に指定する
- ・「対象マシン名」に対象マシンの「マシン名」もしくは IP アドレスを指定する(例:「PC0001」、「192.168.10.250」)
- ・「アカウントの指定」に設定するユーザーは管理者権限が必要

2) タイプ「ドメイン」の場合

- ・ドメインコントローラーから「アカウント情報クエリ」「インベントリ(資産)情報クエリ」を取得する場合に指定する
(「フォルダー/ファイル/共有リソース情報」を取得したい場合はタイプ「Windows」を選択してください)
- ・「対象マシン名」に「ドメイン名」または「ドメインコントローラーのマシン名」を指定する(例:「amiya.co.jp」「AMIYAPC-AD」)
- ・アカウント情報クエリのみ、「アカウントの設定」でドメインの一般ユーザーを指定することが可能。
インベントリ(資産)情報クエリは、管理者権限が必要。

ドメインコントローラーを対象マシンとする場合、最新の正しい情報を取得するためにタイプ「ドメイン」に設定してください。



サブクエリの実行に時間がかかる

バージョンアップの場合、旧バージョンの収集結果との整合性のため、収集月が切り替わるまで、サブクエリの実行に時間がかかる場合があります。月の切り替わりを待つか、同一設定で別クエリを作成して再度収集を行うと、実行時間の短縮化が期待できます。

対象マシンの UAC が有効のとき、クエリ実行に失敗する

UAC が有効の対象マシンに対してクエリを実行するには、スコープのユーザー名を対象マシンの “Administrator” または、対象マシンの “Administrators” に所属する “ドメイン ユーザー” とする必要があります。

ファイルのアクセス日時が更新されない

Windows Server では、デフォルトでファイルの最終アクセス日時が更新されません。ファイルアクセス時に最終アクセス日時を更新するには、OS の設定を以下のように変更してください。

- 1) 管理者としてコマンドプロンプトを開く
- 2) 以下のコマンドを実行する
`fsutil behavior set disablelastaccess 0`
- 3) OS を再起動する

最終アクセス日時を記録しない設定に戻すには、上記手順 2) のコマンドの末尾「0」の部分で「1」として実行してください。

コマンドラインでクエリを操作する

以下のパスに、コマンドラインツールが用意されています。

<インストール先フォルダー>%AuditorUtil.exe

基本的な使い方は、「オプション /?」を引数として実行すると表示されます。

例として、クエリ名を指定して実行する方法を説明します。

以下のコマンドを実行することで、「ユーザークエリ」という名前のクエリを実行できます。

```
AuditorUtil.exe "ユーザークエリ"
```

コマンドの返り値は以下のようになります。

- 0: 正常終了
- 1: 警告終了(ライセンス超過等)
- 2: エラー終了
- 9: その他(存在しないクエリを指定された、実行中のクエリをクライアントから停止させた等)

なお、同じ名前のクエリが複数あった場合には、それらがすべて実行されますのでご注意ください。この場合、最後に終了したクエリの返り値が表示されます。

対象マシンへ他サービスから net use 接続されている場合

対象マシンに Resource Athlete 以外のサービスが Local System アカウントで net use 接続している場合、Resource Athlete サービスのログオンユーザーを Local System アカウントから別途作成した Administrators 権限をもつ専用のユーザーアカウントに変更することを推奨します。

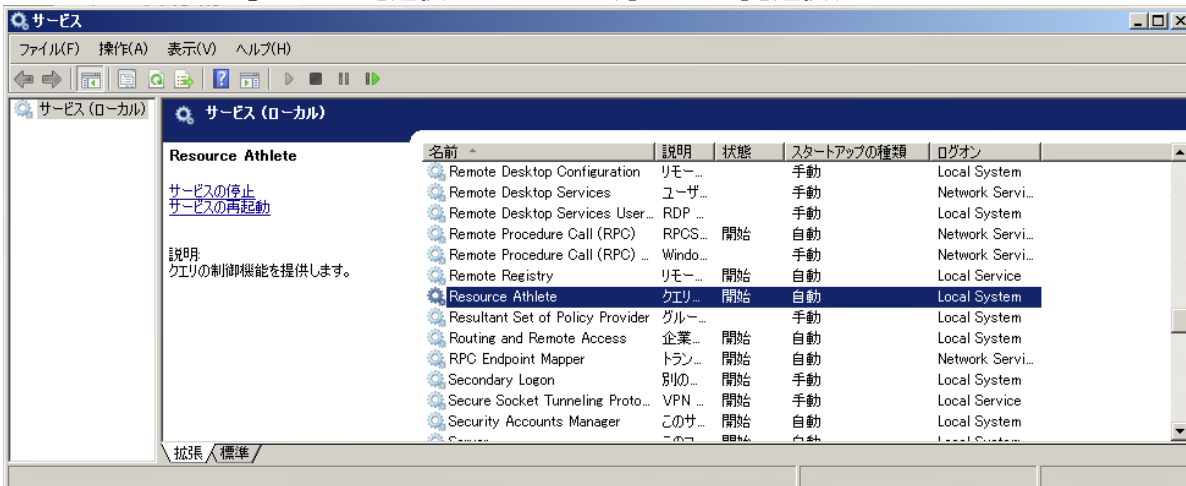
以下のような場合に該当します。

- ・クエリ実行すると「同じユーザーによる、サーバーまたは共有リソースへの複数のユーザー名での複数の接続は許可されません。」のエラーになる。
- ・クエリ実行すると「フォルダー情報取得に失敗しました。アクセス権が不足している可能性があります。」の警告になる。
- ・ALog ConVerter V7 のマネージャーサーバと共存している。

手順は下記のとおりです。

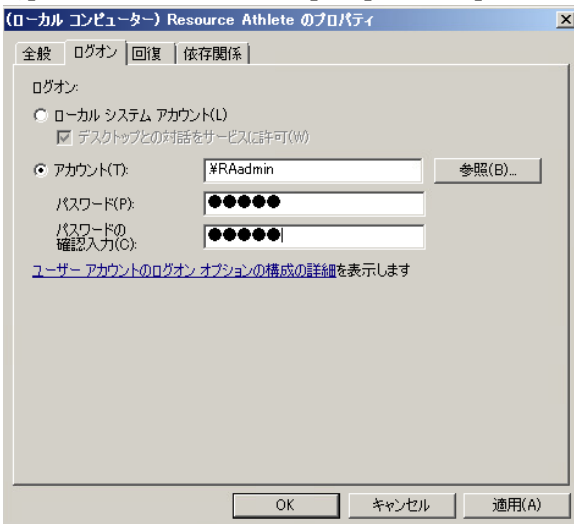
1) [コントロールパネル]-[すべてのコントロールパネル項目]-[管理ツール]-[サービス]を起動する

2) 「Resource Athlete」のサービスを選択して右クリックし、[プロパティ]を選択する



3) 「Resource Athlete のプロパティ」で [ログオン] タブを選択します

4) [ローカルシステムアカウント] から [アカウント] ラジオボタンに切り替え、Administrators 権限をもつ専用のアカウントを指定します



5) 「適用」ボタンを押下し、「OK」ボタンで画面を閉じます

6) Resource Athlete サービスを再起動します

第 3 章 制限事項

この章では、Resource Athlete の仕様上の制限事項を掲載します。

ファイル・フォルダー・共有クエリの収集対象

ファイルクエリ、フォルダークエリ、および共有クエリは、シンボリックリンク、ハードリンク、ジャンクションは、収集対象となりません。

クエリの最大同時実行数

クエリの最大同時実行数は 50 です。50 を超えるクエリは実行されません。

クエリの実行は、できるだけ同時実行しないように設定してください。

ファイル・フォルダークエリでアクセス日時が更新される

ファイルクエリ、フォルダークエリで、ファイル・フォルダーのアクセス日時が更新されるケースがあります。

Windows、PowerScale については更新されないことが確認されています。

下記の OS については、フォルダー/ファイルのアクセス日時が更新される可能性があります。

製品(OS)	クエリ	クエリ設定		フォルダー		ファイル	
				アクセス日時	更新日時	アクセス日時	更新日時
NetApp (Ontap)	フォルダークエリ	デフォルト		更新される	更新されない	更新されない	更新されない
	ファイルクエリ	デフォルト		更新される	更新されない	更新されない	更新されない
		重複ファイル ハッシュ値が同じ: いいえ	※1	更新される	更新されない	更新されない	更新されない
		重複ファイル ハッシュ値が同じ: はい	※1	更新される	更新されない	更新される	更新されない
EMC (Unity)	フォルダークエリ	デフォルト		更新されない	更新されない	更新されない	更新されない
	ファイルクエリ	デフォルト		更新されない	更新されない	更新されない	更新されない
		重複ファイル ハッシュ値が同じ: いいえ	※1	更新されない	更新されない	更新されない	更新されない
		重複ファイル ハッシュ値が同じ: はい	※1	更新されない	更新されない	更新される	更新されない

※1 重複ファイルのみ抽出する、ファイル名が同じ、更新日時が同じ、すべて「はい」に設定
「ハッシュ値が同じ」の設定だけが影響する

アプリケーションクエリの「タイプ」列に「更新プログラム」と出力されない

アプリケーションクエリの実行結果のフィールド「タイプ」に更新プログラムであっても「更新プログラム」と出力されず、「Application」と出力される場合があります。

マネージャーサーバが所属するドメインと信頼関係が片方向のドメインが存在する場合の注意事項

マネージャーサーバが所属するドメインと信頼関係が片方向のドメインが存在する場合、以下の点に注意してください

- ・ユーザークエリ・グループクエリで、マネージャーサーバと片方向の信頼関係を結ぶドメインを経由するドメインは収集できません。
- ・「展開時に使用するドメインスコープ」を指定する場合も同様に、マネージャーサーバと片方向の信頼関係を結ぶドメインを経由するドメイン指定しても展開できません。

例：下図のようなドメイン構成の場合

- ・ユーザークエリでスコープを指定する場合、ドメイン A は収集できるがドメイン B を指定しても収集できない。
- ・グループクエリでスコープを指定する場合、ドメイン A は収集できるがドメイン B を収集することが出来ない。また、「展開時に使用するドメインスコープ」でドメイン B を設定しても、ドメイン B のユーザー・グループは収集できない。
- ・ファイルクエリ・フォルダクエリ・共有クエリで「展開時に使用するドメインスコープ」を指定する場合、ドメイン B を指定してもグループ2は展開されない。ドメイン A を指定するとドメイン A に所属するユーザー（ユーザーA）のみ展開される。

